

善隣友好



第1回韓国・ハンリム大学生ホームステイ事業。1996年2月5日、日本学科の学生23人が、町内の民家23軒で10日間ホームステイをして、町民と交流をしました。



2014年7月13日、ハンリム大学生の歓迎会を町内で開催。歓迎会は毎回、国際交流協会が主催し、ホストファミリーや町民有志の参加で行っています。

南部町国際交流協会は、
今後も韓国・ハンリム大学日本学科と相互交流を続けます。



2016年1月24日、ハンリム大学との交流20周年記念式典を町内で開催。ハンリム大学からは学生6人が出席。大学から長年貢献されたホストファミリーに感謝杯が贈られました。



2019年2月22日、南部町国際交流協会会員と町民有志がハンリム大学を訪問しました。国際交流はお互いの国を往来すること。2年又は3年に一回、韓国を訪問しています。



2019年2月23日、大学がある江原道春川市内でハンリム大学関係者と交流をしました。

ご挨拶

南部町国際交流協会は、今年で1994年創立し、今年1996年2月交流事業として、韓国春川市にあるハンリム大学日本学科の学生23名が、町内の一般家庭で10日間ホームステイしたのが最初で、新型コロナウイルスが蔓延する前の2019年7月まで、25回218名の学生が本町を訪れました。2000年からは隔年で、米国のハイオ州立大学の学生もホームステイで、同大学の都合により中断するまで4回44人の学生を受け入れました。その他、外国語スピーチ発表会やホストファミリーを中心とした韓国訪問などの事業を行っています。この2年間、新型コロナの影響で思うような活動が出来ていませんが、今回発行の「善隣友好」で活動の一端を紹介出来れば幸いです。

南部町国際交流協会
会長 塚田 勝美

俳句と川柳で交流しました

韓国・ハンリム大学日本学科に俳句または川柳をお願いしたら、先生や学生たちから、五七五の句が多く届きました。南部町国際交流協会会員も投稿しました。テーマは、「日韓交流」です。

ハンリム大学 14人

遠くでも 心は近く 繋がってる
あの響き 空色の声 ウグイスか
春になれば 私は桜 君はムクゲ
同じ空 国境を超え 未来へと
真心で 作ってみよう 丈夫な糸
顔と顔 あわせて手振る 近くなる
遠い君 遅くなっても 手をつなぐ
風の後 満開になる ふたつの縁
手をつなぎ 平和の道を 共に行く
なりましょう 韓国日本 なごやかに
離れても 同じ季節を 過ごす友
私たち まるで一つの 花みたい
私たち 韓国日本 仲良しに
韓日は 距離が近い 友達だ

南部町国際交流協会 9人

金京恩 家族がふえて 声はずむ
帰韓する 機影に手振り 涙する
アニョハセヨ はじめて覚えた 韓国語
桜さき 日韓交流 春まだか
トマンナヨ 学生たちと ビール酌む
たくさんの 楽しい時間を カムサハムニダ
まちこがれ せみの声きき 支度でき
言葉じゃない 心でつながる 人と사람
ホームステイ 出会い交流 笑顔あり

日本学科 コ・スリム
日本学科 ノ・ジュン
日本学科 イ・スジン
日本学科 キム・ノア
日本学科 ファン・ユジュン
日本学科 キム・スヨン
日本学科 シン・ウンソン
日本学科 チェ・スビン
日本学科 チョ・ウンイ
日本学科 チェ・エナ
日本学科 イ・チェウン
英文科 チョン・エリム
融合学科 キム・ジェホン
中国人留学生 YUE・WANWAN

会 員 早田 秀子
会 員 岡田 久男
会 員 入口 幸子
会 員 板井 隆
会 員 田淵 千里
会 員 澤下 由里
会 員 田村 誠
会 員 大下 真史
事務局 宇田 翔一

編集後記

新型コロナウイルスの感染予防対策から、南部町国際交流協会の各事業を21年度も中止しましたが、かわら版特別号「善隣友好」は発行することになりました。25年間交流をしている韓国・ハンリム大学日本学科に、日韓交流をテーマにした俳句または川柳をお願いしたら、交流の大切さを詠んだ句が19件届き感激しました。国際交流は、人と人、心と心の交流です。これからも南部町国際交流協会は、善隣友好を大切にし、小さな草の根交流を続けます。

南部町国際交流協会

事務局長 野口 隆資

南部町国際交流協会役員

役職	氏名
会長	塚田 秀美
副会長	岡田 久男
事務局長	野口 隆資
理事	入野 幸子
理事	山本 隆子
理事	板井 千隆
理事	田淵 里里
理事	澤下 真央
理事	大田 智央
理事	生田 忠明
監事	青砥 日出夫
顧問	永生 英夫

※善隣友好…「隣の国など身近なところと仲よくし友情を深める」

南部町国際交流協会へのお問い合わせは、南部町役場企画政策課内
国際交流協会事務局までお願いします。 電話 66-3113



発起人の清水さん(中央)とトレイルランを楽しむメンバー

向き合う魅力

活動。参加で披露する。同好会の活動は、一緒に乗る。打吹山は初めのコースと乗し、弘さん(66)様で山に足を踏み入れた。

清水さんの案内でルートを通走した後、それぞれが2時間耐久の自由走をした。清水さんは「初心者からベテランまでいろいろな人がいる。興味がある人は一緒に走りましょう」と話している。問い合わせは電子メール hoe4333@gmail.com (加嶋祥代)

たるため、同青年中央会は「地元之宝である大山とお地蔵さんにもう一度目を向けてもらえたら」と親子連れの参加を呼びかけている。午前10時から。同青年中央会は、2018年の大山開山1300年祭を盛り上げようと、大山寺の本尊であるお地蔵さん(地蔵菩薩)を通して大山の歴史や文化を見直し、次

代を担う子どもたちに伝えていくために、7年前から活動の柱として「お地蔵さんプロジェクト」に取り組み、毎年フェスティバルを開催している。今回は、同青年中央会の会員や家族のほか、県西部



お地蔵さまフェスティバルマスコットキャラクター



日韓交流がテーマの俳句や川柳を掲載した会報

韓国ハンリム大と俳句・川柳で交流

南部町国際交流協会、町全戸に掲載会報配布

南部町国際交流協会は、26年間交流を続けている韓国のハンリム大(江原道春川市)と俳句・川柳を通して交流を行った。寄せられた俳句や川柳は同協会の会

報「善隣友好」に掲載し、21日に南部町全戸に配布する。

同協会は1996年からハンリム大の学生をホーム

日本青年交通安全キャンペーン2022

ゆとり持つ 時間に気持ちに 車間距離

交通安全事故から守ろう

サンク リーン

は交通事故ゼロを願っています

例年通りの活動ができないうち、なんとか交流できないか」と同協会の野口隆資事務局長がハンリム大に

日韓交流をテーマにした俳句、川柳を提案。すると、ハンリム大日本学科の学生

振る舞いが行われる。高塚康治実行委員長は「お地蔵さまを通して子どもたちには地域に愛着や誇りを持ってもらえたら。コロナ禍でなかなか友だちとの触れ合いができない中、大山の自然の中で楽しんでほしい」と話した。問い合わせは電話090(6406)0400、安達さん。(寺谷寛)

らが詠んだ575句が送られてきた。会報には、ハンリム大の学生14人、同協会の会員9人の句を掲載。日本学科のノ・ジュンさんは今後の韓日関係が良好になってほしいとの思いを込め、「あの響き 空色の声 ウケイスカ」を投稿。交流を象徴する「空色」を使い、交流が波及していく様子を表現した。

野口事務局長は「韓国の学生たちの時代背景を詠んだ句はどれも素晴らしい出来栄で感激した」とうれしそうに話した。会報はハンリム大にも送ることにしている。(盛山友歌)

好評開催中

好評開催中

ネコは人間とともに世界に広まった。

岩合光昭の

